

開園記念祭

コロナ禍にありながら、無事に8月1日の開園記念日を迎えられました。日頃からの皆様方のお力添えに深く感謝申し上げます。



今年で31周年！31といえば・・・



あのアイスクリームを食べました♪

里だより

No.368

令和4年9月1日

—発行—

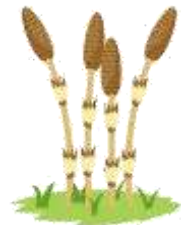
菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



九月号もくじ

(ページ)

編集後記	行事予定	行事報告	研修報告	サービス向上委員会より	医務より	職員より	主任より	サビ管より	施設長より	九月号もくじ
9		8	7	6		5	4	3	1	



施設長より

備忘録 桜 くそのく

八月一日 初代事務長の渡辺緑氏の訃報が届いた。法人役員を勇退されて随分経つが、法人立ち上げから、開設後の事業運営に多大なご尽力をいただいた。銀行を定年退職されたのち、ご縁で法人の事務長を務められた。当時のことを知る初代施設長の河野氏からは「銀行と社会福祉会計は随分違うため、誰もまねのできないほどの勤勉さで、社会福祉会計を独学で学び、多くの本を読み、法人の経理・会計を助けていただいた」と、事ある毎に聞いていた。ただ、銀行出身ということもあり、金銭面の数字には几帳面で、一円の間違いでも信用を失い、信頼関係にも影響してくると、殊の外厳しかった。当時は手書きの書類も多かったため、「字は体を表す」と言うように、数字も丁寧に書くよう指導を受けた。汚い字で読みにくい数字は、それを見た他人が見間違ふこともあり、大問題になるとの理由だった。併せて、小数点とカンマの違いも同様だった。この姿勢は、利用者支援にも通ずるものがあると先輩職員から指導を受けたものだ。

事務方を統べる傍ら、利用者さんの生活の質の向上にも熱心であられた。その想いは、イベントなどに散りばめられている。夏祭り大会では、ホルモン煮込みの味付けを担当され、人気のメニューだった。売れるかどうかは二の次で、「利用者さんは喜ばれるだろうか？」を気にかけられていた。昼食会のイベントでも「利用者さんは、食事を楽しみにされているので、普段の施設生活では食べることが出来ないメニューを食べていただきますように」と、伊勢エビなど豪華な食材が食卓に並んだこともあった。

また、お酒が大好きで、事務長を囲んでの酒席が月に一回はあっただろうか。その部署・チームのストレス発散の場となる『飲みニケーション』というものだろう。これは、コロナ禍？最近の風潮？では嫌厭されがらしいが、外部の方と酒席で親睦を図ることが多かった当時、お酒の飲み方、酒席での振る舞いなど、役に立つことが多かった。酒の席での嗜みというより、目上の人、相対する人との接し方を学んだように思う。銀行という厳しいところで、私たちの想像もできないようなご苦労をされた賜物なのだろう。また、歩きながらの挨拶など言語道断。「お客様が来られたら・・・」「目上の方には・・・」急いでいても必ず停止礼。厳し過ぎるのではと思う方もいるかもしれないが、その根底には「君たちが、外に出たときに恥をかかないように」との親目線の温かな想いがあった。振り返ると感謝に堪えない。

開設から数年経ったころ、あと十年後、二十年後に利用者さんが花見をできるようにと十数本の桜の苗木をいただいた。今では施設建物の高さを優に超し、毎年見事な花を咲かせ、利用者さんだけに留まらず、地域の方の目も楽しませてくれている。

これまで沢山のご指導とご鞭撻、誠にありがとうございます。ご冥福をお祈りいたします。



備忘録 桜 くそのこ

施設には様々な文書が届く。行政からの通達、企業の広告、関係機関からのお知らせ、利用者さん宛の手紙、本誌のような他事業所からの広報誌まで。

そうした広報誌の一つに私の稚拙な文章など到底及ばない圧倒的な文章力と語彙力、利用者支援への熱い情熱が文章からあふれ出るような、読む人を魅了する便りがある。春号から冬号の年に四回届く、その広報誌のとりこになり、全職員が目を通せるよう施設内のWEB掲示板に載せている。言い過ぎと思われるかもしれないが、人権研修のどの参考書よりも価値があると思っっている。広報誌の名は『あゆみ』。氷川学園 故西坂千賀子施設長が書かれている「桜の樹の下で」。

随分前に、日本知的障害者福祉協会発行の『さぽーと』に寄稿された記事や広報誌を拝読して、常々お目にかかりたいと思っただころ、ご縁があり熊本県知的障がい者児施設協会の研修倫理委員会の仕事で一緒にさせていただくことになった。委員会では、施設協会々員向けの研修や保護者・職員の合同研修、利用者さん向け・参加型のセミナーなどを企画するが、提案した研修の講師をご存じだったり、講師の方の書籍には、既に目を通されていたりと、人脈が広く読書好きで、貴女の博識さには毎回驚かさされた。また、温和で明るい口調で、一介の職員の私などにも丁寧に接していただいた。当施設とは初代の河野施設長ともゆかりがあり、当時の想い出を話していただくこともあった。

つくしの里の祭りにも八代から遙々お越しいただいたりもした。また、ホームページや本誌の感想をいただき、スタッフの記

事を褒められた時はこの上ない喜びだった。

西坂施設長は、氷川学園でのエピソードを楽しく話されることも多く、施設の職員・利用者さんのことを「氷川のみんなが・・・」と称され「くいるから今の仕事が出来ている」「くのおかげで今の私が在る」と感謝の言葉を述べられているのをよく耳にした。その為か、求心力も強く、必ず再会したいと思う方も多かった。法人理念の「共に在りたいと願い・・・彼のためにではなく、彼と共に在ることを喜びとする」を体現された方だったと思う。

前述の広報誌の施設長欄「桜の樹の下で」では、その想いをつづられている。言葉が戻ってくるものだとしたら、周りの皆さんが、西坂施設長と共に在りたいと願われているのではないだろうか。施設長の想いは色あせることなく氷川の清流のように脈々と受け継がれていくものだろう。

またお会いできるものと思っただ分、心の空白も大きい。コロナが落ち着いたら研修倫理委員会のOB会や読んだ本の話、勉強会や近況報告をしたいとの約束はもう叶うことはないが、あまり下を向いていると「前を向いて」とお叱りを受けそうだ。よく口にされていた「やったしこ、やれたしこ」で進むことにしよう。氷川学園の広報誌『あゆみ』は、本誌をご覧の当施設の関係者にも見ていただきたい。「人が人を想う大切さ」がにじみ出ている広報誌です。

西坂施設長のご冥福をお祈りいたします。

施設長 松永一博



サビ管より



令和四年度も早いもので、あと一ヶ月で半期が終わります。以前は、夏祭りが八月一日でしたので、この時期はいつも忙しかったな〜と思い出しながら、炎天下の中庭を眺めたりしました。夏祭りが秋になったのに、なんだかとても慌ただしい上半期だったのは何故でしょう。振り返ってもこれといって思い当たる節がないのは年齢のせいではないと思いたいです(笑)。

先月、「認知症ケア指導管理士の初級の試験を受けてきました」と職員が報告にきました。「がんばったんだね〜」と話しながら、付箋やマーカーを引いて勉強した形跡がしつかり残っているテキストを見せてもらいました。そして、八月中旬に「合格しました!」という嬉しい知らせがありました。年度初めに紹介した、サービス向上委員会の認知症委員会の一人です。

当事業所は、統計に違わず、ダウン症利用者の認知症発症率が高く、日々の支援に難しさを感じるものがたくさんあります。知的障害がベースにあるため、直接活用できたり、結果に結び付くわけではない現実もありますが、基本的な知識の上に応用ができると思いますし、これをきっかけにどんな将来に結び付くかわかりませんので、ナイスチャレンジだったと思います。

認知症委員会だけでなく、行動障害委員会は、応用行動分析の勉強をしたり、「この研修受けたいです」と申し出てきたり、専門性を高めるといふサービス向上委員会の目的が、少しずつ実現できている様子を、うれしく思いました。

話は変わりますが、先月号の里だよりでお知らせしたように、つくしの里のインスタグラムを始めました。自慢ではありませんが、IT音痴の私は、全くついていっていません。他の事業所さんは早くから始めていて、職員もいろいろな施設の投稿を見ているようでした。

SNSが広報手段の主流になっている現状に乗っていかねければなりません。求職者、利用希望者への認知度を上げるためにも、今年度の重点取り組み課題にして取り組んでいます。

若手の職員に教えてもらいながらインスタグラムを立ち上げました。投稿が得意で好きな職員が担当して更新していきます。楽しんで見ていただけたらと思います。

自分では絶対しないことですが、これをするようになったのも何か意味があると思っ取り組みます。

以前、横文字やカタカナ語は使わないで欲しいとご要望をいただきましたが、代わる言葉がわかりませんので、お許し下さい。

支援課長 木庭 由香

~ご報告~

8/23(火)新型コロナウィルスのワクチン接種4回目(入所・GH第1陣)が終わりました。次回(入所・GH第2陣)は8/30(火)に予定しています。



主任より

尊い



先日、テレビで「病院ラジオ」という番組が放送され、産婦人科で熊本の福田病院が紹介されました。病院で赤ちゃんを産んだが病気が見つかった方、不妊治療の結果赤ちゃんを授かった方、双子を産んで一人を亡くしてしまった方、未婚のまま出産しギリギリまで養子縁組するか迷った末に一人で育てていく決意をした方。それぞれと芸人のサンドウィッチマンさんがトークし、ラジオという形で院内に流れます。院内では、大切な赤ちゃんを抱っこしながら、また大きくなったお子さんと一緒にこのラジオを聴く姿もありました。

誰にも代わる事ができないこの世でたった一人の人。どんな境遇であれ、新しい命が誕生することの神秘的な感じと、感動の一言では片付けられないような感情で胸が熱くなりました。私には、甥・姪が五人います。誕生した時から今まで、本当に大切に想い関わっています。一番上の甥は今年二十四歳で社会人として働いています。大きくなっても可愛くて仕方ありません。何かあれば身代わりになっても良いとさえ思います。

私は昨年度からリハ指導を担当しています。理学療法士の方には、事前に対象の利用者さんの情報に目を通して頂きます。入所する前はどのような生活をしていたのか、どのような事に興味関心があるか、入所時の状態はどうだったか、特に日常的にあまり関わりがない利用者さんについて尋ねられても、分からない部分があったり曖昧だったりする事があり、自分が返答できない事に

悔しさを感じ反省しています。長く勤めていても利用者さんの成育歴を知らないなんて、今まで何をしてきたのだろうと。よくお喋りができる利用者さんには、つくしの里に入所する前の事を尋ねると「〇〇くんと〇〇ちゃんと一緒にだったよ。こんなことがあった」と話して下さいますが、だいたいの利用者さんについては、入所時からの事を知っている職員や御家族へ尋ねる以外ありません。ただ、以前より職員間で利用者さんについて「昔はこうだった」という話をあまり聞かなくなったようで、寂しい気がしますし、知っている情報をもっと伝え合わなければと思います。

過去に施設内で成人式をした際にお母様から頂いた手紙、担当になって色々お話を聴くことは、僅かながらその人の歴史を知る貴重な機会です。担当以外の利用者さんの成育歴を知る機会、御家族から話を聴く機会を今後増やしていければ、それぞれを大切に想う気持ちをもっと強くなり、介助する側と受ける側という場面ではない、一緒に過ごす中でやりとりのバリエーションが増えたり、気持ちの引き出し方や表現が変わっていったり、期待できるのではないかなと思っています。

大切に育てられてきたんだろうな、どんな幼少期だったのかな、何が好きだったのかな、どんな環境だったのかな、障がいと付き合い合いながら生活する中でどんな気持ちを感じてきたのかな：関わる全ての利用者さんが生まれた時の事を想像してみると、ついつい厳しい口調で注意してしまっただけの自分を恥じます。もつと他に言い方がなかったか、職員は家族に代わる存在なのに一緒にいて安心できる相手になっただけだろうか、どれだけ相手の気持ちを理解できただろうか、こちらの話がどこまで伝わったのだろうか、どれだけ気持ちに寄り添う事ができているだろうか。

施設 PR 委員会 今月の 1 枚！



大好きなコーラを自販機で購入
「かんぱーい！」

利用者さんと同様に、つくしの里で働く職員一人ひとりも大切にされるべき存在であり、それぞれが持っている魅力を活かして協力して業務を進めていきたいと思えますし、魅力に気付けず人の欠点ばかりが見えていけないかな、と不満が多くなると振り返り反省します。お互いを高め合うようなチームでありたいです。

主任支援員 中尾 麻里子

職員より

担当利用者Mさんの話をします。Mさんは平成 26 年に入所されました。私も同じ年度に入職しましたので、私にとっては同期のような存在です。

初めは、なかなか上手く関われず不器用な関係性でしたが、一緒に活動を続けていく中で相談事をされるようになりました。当時はいつかMさんの担当をしてみたいと思っていましたが、平成 29 年度から担当になりました。今年度で 6 年目になります。担当になって初めて分かる事やご家族と話して初めて知る事もあり、まだまだMさんの事を理解できていないなと思います。

Mさんは音楽鑑賞が好きでCDをコレクションされています。先日「この曲のCDが欲しい」と言われましたが、時代の流れからCDでリリースされず、売ってない事を伝えると悲しそうな表情でした。私は時代の変化も予測しながら支援していかなければならないことに気づきました。

支援する側ではありますが、何かあると「今日は元気ないね」と心配されたり、嬉しいことがあった時には「おめでとう」と言って下さったり、私がMさんの存在に助けられる部分もあります。初めて出会った日の事と、感謝の気持ちは忘れずに、Mさんが安心して過ごせるよう関わってきたいと思います。

(支援員 三木)



つくしの里に入職し、3年目を迎えました。入職した時は分からない事ばかりで皆さんにご迷惑をおかけする事が多々ありましたが、先輩職員方に分かりやすく様々なことを指導して頂き、ここまでくることが出来ました。まだまだ未熟で分からないことも沢山ありますが、もっと努力を重ね日々精進していきたいと思えます。

入職した当時、利用者の皆さんからも優しく沢山の言葉を掛けて頂き、とても嬉しかったことを今でも覚えています。言葉でのやり取りが難しい方はハイタッチや握手などでコミュニケーションを図り、言葉以外での関わりもとても大切なことだと改めて感じさせられる場面も多くありました。今後も利用者さんの表情や行動などを見ながら「今どのようなことを思っているのか」、「何を伝えたいのか」などを汲み取る事が出来るよう心掛け支援に当たっていききたいと思えます。(支援員 山下)

医務より



コロナの感染拡大が続いています。感染者が減る様子もみられず、不安な日々を過ごしています。行動制限などはありませんが、さすがに大手を振ってどこかに出かけることはできません。利用者さんも外出や外泊を楽しみされていますが、いつになれば自由に何の気兼ねもなくできるようになるのか…。

こんな中でも4回目のワクチン接種の日程が決まりました。3月に受けた方を対象に8月23日と30日で予定を組みました。4回目は発症予防の効果は低いようですが、重症化予防効果は6週間経過しても低下せず維持しているそうです。ワクチンだけに頼ることはできませんが、高齢者・基礎疾患のある方が多いため、打っておけば少しは安心して生活ができるかなと思えます。秋口にはオミクロン株に対応するワクチンも出てくると話題です。少しずつ当たり前の日常が戻ってくることを期待しています。(看護師 松村)

サービス向上委員会より

■ 権利擁護【主任支援員 井上・長渕・支援員 小城】

今年度は、4月に虐待防止研修の実施、虐待の早期発見リストのチェック(全利用者分)、3つの約束(利用者さんとの支援の約束事＝プライバシーへの配慮、気持ちに寄り添うこと、笑顔で接することなど)の周知、見直しなどを行ってきました。



そして新たな試みとして、利用者さんからの「相談受付の日」を設け、第1回目を6月28日に実施しました。10時から15時まで相談員が談話室に待機する形をとり、飲み物やお菓子を準備して、希望者が随時立ち寄れるようにしました。月1回のどぎゃん会や意見箱の設置などがありますが、なかなか一個人の考えや意見を拾い上げる場が少なかったのも事実です。最初は様子見の感じもありましたが、ひとり入ると次の方も入りやすくなり、合計8名の方が話しに来られました。生活上の困り事を相談される方もいれば、近況報告をされる方、将来の希望を熱く語られる方、何気ない雑談などなど…。なかなかここまで1対1でじっくりと話すことはない為、新たな発見もたくさんありました。

この「相談受付の日」は3か月に1回を予定していますので、次は9月中に実施したいと思えます。

研修報告

※ 7/21 (木) ~8/20 (土) の受講分について報告いたします

◆ 看取り【7月26日(火) つくしの里】

入所施設だけで見ると、65歳以上の方は4割を超えます。これまでも多くの利用者さんとお別れを経験し、終末期ケアなどは行ってきました。利用者さんにはいつまでも健康でいてほしいという願いは尽きませんが、高齢化を迎えた今、そのお別れとも対峙しなければならない現状でもあります。

死生観の構築をすることで、利用者さんの人生を尊び、より丁寧な支援に結び付けることを目的に看取りの研修を行いました。講師は、一般社団法人繋の宮崎睦美先生。緩和ケア病棟で多くの看取りに携わられ、残された方々の悲嘆に寄り添うグリーフケアに尽力されています。経験談も踏まえお話を伺いました。終了後は心が温くなる研修でした。



◆ 救急法【8月18日(木) つくしの里】

菊池広域消防本部南消防署の方にご来園いただき、救命処置の流れやその必要性の説明と実技指導を受けました。実技は、グループに分かれて胸骨圧迫、AED等の一次救命処置を行い「こういう場合はどうしたらよいのか」「このような状況の場合は何を優先させればいいのか」等の質問が職員の間で飛び交い、消防署の方と活発な意見交換を行うことができました。利用者の方の高齢化が進むにつれ、一次救命処置を必要とする場面も出てくると思います。そのような時に、迅速に適切な対応がとれるように、助かる命が助けられるように、研修で学んだことを活かせるようにしていきたいと思います。



胸骨圧迫とAED



胸骨圧迫は
タイミングを合わせ
て交替する

行事報告

※ 7/21 (木) ~8/20 (土) の実施分について報告いたします

★ 生活介護①班食事会【7月21日(木) つくしの里】

少しでも利用者の皆さんに楽しんで頂こうと、数日前から会場の装飾づくりを一緒に行い、気分を高めながら当日を迎えました。食事会の前には、「8時だよ！全員集合！」の鑑賞会があり、昔懐かしい映像に、フフフッと笑われる利用者さんもいらっしゃいました。

お弁当はアンジュールハウスさんに依頼しました。ペースト食から刻み食、一口大、常食と、何種類もの食事形態に今回も柔軟に対応して頂きました。盛り付けも食欲をそそられるように華やかで、普段食事を残しがちな利用者さんもしっかり完食！食事をしながら他愛もない話をして、ゆっくりとした時間を過ごすことができました。新型コロナウイルスの影響で、思うように外出ができません。そんな中でも、利用者さんに楽しんで頂けるような行事を今後も計画していきたいと思っております。(支援員 尾崎あ)



美味でした❤️

★ 開園記念祭【8月1日(月) つくしの里】

つくしの里は、平成3年8月1日に開園し、今年で31年目を迎えました。

今回はグループ毎、2カ所に分かれセレモニーを行いました。理事長からの祝辞や施設長からの昔の映像を交えてのお話しの、利用者さんそれぞれ思い思いの表情をされていました。また、時代を振り返るDVDやクイズもあり、笑いの絶えない時間となりました。

時代も令和となり〇周年？と、数えにくくなり、そして未だコロナ禍。どうにか少しでも楽しみ、盛り上がるようにと、お祝いのお弁当を食べた後は、例年のかき氷会ならぬ「31(サーティーワン)アイスクリーム会」を行いました。色とりどりのアイス、しかもレギュラーサイズ！31アイスの帽子をかぶった女性職員が、店員顔負けの呼び込みをしました。暑さ厳しい中、利用者さんと昔の話をしながら、とっておきのアイスを食べ、心温まる時間でした。いつも温かい言葉をかけて下さる地域の方々、お心遣いをいただきました保護者会様を始め、つくしの里に思いを寄せて下さる方々に感謝いたします。

(主任支援員 長淵)

行事予定

☆ 敬老会 (つくしの里)

期 日：9月15日 (木)

内 容：利用者の皆さんの健康と長寿を願って施設内でお祝いします



☆ かき氷会・花火大会 (つくしの里)

期 日：9月20日 (火)

内 容：かき氷会は昼食後の14時から食堂で味わいます。



花火大会は夕食後に中庭で行います。グループホームでも花火を楽しみます。

ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和四年七月二十一日～

令和四年八月二十日です

【寄付・寄贈】

- | | |
|---------------|------------|
| ・今坂 桂子 様 | ・内村 スマ子 様 |
| ・江頭 多津子 様 | ・鍛冶原 キヨミ 様 |
| ・後藤 弘子 様 | ・田上 至誠 様 |
| ・藤田 孝志 様 | ・古川 信子 様 |
| ・前原 透 様 | ・山口 静美 様 |
| ・渡辺 昭子 様 | ・武藤 亮子 様 |
| ・渡辺 和子 様 | ・すまいる 様 |
| ・(有)千石屋石油 様 | |
| ・(株)リエルサプライ 様 | |

【ボランティア】

- ・ 村里 和洋 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



編集後記

八月一日の開園記念日は、ささやかながらも三十一周年を祝うことができました。窮屈な生活の中、笑い声に包まれる楽しい時間でした。

このコロナ禍もつくしの里の長い歴史の一ページとして振り返る日がくることを信じて、また新たな一歩を踏み出したいと思います。

9月1日は
防災の日



～もしもの時に備えましょう～

※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。